

組織

会長	榊原 若樹	(横手明峰中学校)
副会長	金沢 資子	(増田中学校)
事務局	佐藤 潤	(横手南中学校)
事業部	吉沢 理	(十文字中学校)
研究部	柴田 緩子	(横手北中学校)

主な事業

横手市児童生徒美術展・冬季研修会
 (横手駅前交流センターY 2 プラザ)
 令和2年11月20日(金)～24日(月)

秋田県児童生徒美術展地区審査
 (横手駅前交流センターY 2 プラザ)
 令和2年11月24日(月)



審査の様子



市美術展の様子

研究会の記録

○ 第46回横手市児童生徒美術展

様々な行事や会が縮小する中「横手市児童生徒美術展」の開催も危ぶまれたが、役員会を設け、開催方法やコロナ対策についても話し合った上で、ほぼ例年通りに展覧会を開くことを決めた。子どもたちの活躍の場が少ない年であるからこそ、子どもたちの思いや願いが詰まった作品を発表する場、頑張ったことを認め合える場がほしいと思ってのことだった。出品点数もほぼ例年並みに集まった。会場に足を運ぶ家族は例年よりは少ないものの、作品を写真に取めたり、子どもと話をしたりしながら鑑賞する様子があり、例年通り開催できてよかったと感じた。

○ 冬季研修会

今年度は一堂に会して研修会を行う機会をもてなかったため、美術展の搬入・展示作業の後鑑賞会を行い、研修会とした。「小学校低学年」「中学年」「高学年」「中学校」のグループに分かれ、キラリと光る作品を一人1点ずつ選んで講評を添付した。選んだ作品のどんな所がよかったのか、どんな工夫が目立ったのかを記入し、後日作者にメッセージが届くようにした。付箋がはがれやすいことや、選出の観点や意義などが不明瞭であったため、もし次年度も同じような活動をする際は改善が必要である。

○ 秋田県児童生徒美術展地区審査

子どもたちにとって、自分の活動が認めてもらえる場が少なかった今年度、展示されることはなくとも、自分の表現に対して賞状をいただけたのはよかったと思う。また、地区の中から話題作を選出するにあたり、審査員で作品のよさや工夫、児童生徒の思いを汲みながら協議し、選出することができて大変有意義な審査であった。